

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

別添様式2

公表日：31年 2月 16日

事業所名：フューチャー芦屋

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	イベント内容やその日の子ども達の人数、高学年になるにつれて体格も大きくなるので場合によっては狭く感じてしまうかもしれない	狭くもないが十分に広いとは言えないと思う。	物の配置や余計な物を片付ける等まずは簡単にスペースを広げられることから取り組む。
	2 職員の適切な配置	保育士や児童指導員等規定に沿った人数は常に配置をおこなっている。	専門の資格や経験を積んだ支援員がどのぐらい配置されているのか説明を受けていないので分からない。	保護者様に分かりやすく再度お伝えし、安心して利用ができるよう、施設全体で取り組む。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	エレベータの設置や床をバリアフリーにする等、利用する子ども達に怪我がないようにしている。また個人情報も容易に持ち出せない様に常に金庫に保管している。	エレベーターの設置等もあり大変過ごしやす	どのような構造が良いのか分からないが一人一人にあったスペースを考え怪我や事故のないようにする。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	清掃は毎日行うことはもちろんのこと定期的に施設全体を片付けている。	地下にある施設なので冬場はとても寒く感じる	普段から清潔に保ちインフルエンザといった感染症が広がらないように気をつける。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参加	月に1回職員会議を開き業務内容や子ども達への支援の見直し、イベントの検討等を話し合っている。		社員、非常勤は関係なく会議等は引き続き全員で行い、反省や次の目標を決めていきたい。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	第三者でないが、定期的に大阪・兵庫の事業所間での交流を行い情報の交換、業務についての意見を出し合っている。		業務内容がマンネリ化することがないように互いの事業所内での取り組み、対応を交換しあい少しでも良い支援ができるようにする。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	権利擁護や虐待防止等、子ども達に対する研修は積極的に参加するように職員間で徹底している。		必要だと思う研修は引き続き受講を行い支援員の能力向上に努めたい。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	モニタリングを作成の上、適切な支援が必要とされているのかを分析し計画を作成している。また作成の際は保護者の思い、本人の思いを出来るだけ反映させた物を作るよう心掛けている		支援員の考えに固執せず幅広い支援方法があることを理解し常に本人にあった支援を模索する。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	児童発達管理責任者だけでなく所属している職員全員で話を行い支援計画を作成するようにしている。	記載なし	作成は引き続き児童発達管理責任者を中心とし事業所全体で内容を考えて支援を行っていく。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	具体的に書いているように心がけているが保護者や本人には分かりづらい部分もあるかもしれない。		専門用語の使用は控え、保護者以外にも支援員が読みやすい言葉を使うよう心掛ける。

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

別添様式2

公表日：31年 2月 16日

事業所名：フューチャー芦屋

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供 （続き）	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	計画に沿った支援を行おうとしているが、子ども達の日様子や状況を見て必ずしも計画通りにするかは考えていない。	計画の上で、具体的に何に取り組んでいるのかという課題が明確にされていない気がする。	支援にばかりとられるのではなくその日の本人の状況に合わせた取り組みを継続していきたい。スピードは遅いかもかもしれないが無理することなく本人が楽しく過ごせることを1番としていく。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	イベント等は職員間での相談、下見の行った上で決定している。その後希望票として作成し保護者に配布している。		一人での判断では固執しがちになりやすいので全体で考えることで活動の幅を広げていく。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	平日は学校終了時間が遅い為、宿題や個別勉強のみ行っている。長期休みは朝は宿題の取り組み、午後からはイベント等を行って過ごしている。	土曜日や長期休み等の時は色々工夫されているように思うが、学校等がある平日となるとまだまだ工夫の余地があるように思う。	平日の取り組みを考えていきたいが、現状の学校からの帰宅時間や宿題等を考えるとなかなか難しい所がある。毎日というのではなくその日の状況によって対応を考えていく。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	固定しないように気をつけてはいるが内容がどうしても固定になりがちな所がある。		一人での判断では固執しがちになりやすいので全体で考えることで活動の幅を広げていく。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	朝礼というほどではないが朝に必ず職員が集まり利用者・送迎の確認、注意事項等を報告している。		急な休み等の対応が遅れが見られるのがあり子ども達に関することや支援内容の変更時には即座にLINE等で情報を共有し送迎等の間違いがないようにする。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	LINEや場合によっては書類を作成し各支援員が必ず目を通すようにしている。見た時は書類に印鑑を押してもらい全員が確認したか分かるようにしている。		LINE等の活用や書類作成等、職員全員が必ず情報が受け取れる環境を整える。
	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	日報の作成はもちろんのこと定期的に職員間で集まり支援内容について話し合っている。改善がある場合は改めて計画書を作成し保護者に配布、説明を行っている。		引き続き定期的な職員会議の実施や支援内容の保存・検証・改善に努める。

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

別添様式2

公表日：31年 2月 16日

事業所名：フューチャー芦屋

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	1か月、3ヶ月といった周期で計画を見直し、各利用者にモニタリングを行っている。計画そのものに変更がある場合は再度作成の上、保護者にサインをいただいている。		必要に応じての計画の見直しや作成等は今までと変わらずに行ってきたい。
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参加	現段階では相談支援員による担当者会議をす回数自体が少なく各事業所が集まって話をする機会がない。	支援会議の開催を促し、各事業所と連携をとし一人一人に応じた支援を行ってきたい。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施		
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備		
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	交流そのものが少なくどうしても事業所間だけの支援になっている所がある。また、個人情報観点から情報提供をしてくれる場所が少ない。	担当者会議の開催等、普段でも連絡が繋がるような関係を創り上げていきたい。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	要請があれば、本人の状態等を作成上事業所や保護者に提供している。	保護者や事業所等から要請があればいつでも対応できるように普段から資料はまとめておき提供できるように準備しておく。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	研修等は各職員に率先して受講するように勧めている。また受講の際は報告書を提出の上、受講できなかった者も目を通せるようにしている。	必要だと思う研修は引き続き受講を行い支援員の能力向上に努めたい。

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

別添様式2

公表日：31年 2月 16日

事業所名：フューチャー芦屋

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	土曜日イベントを通して色々な所へ行き、学校以外での関わりを多く持つようにしている。	記載なし	引き続き土曜イベント等で関わっていくことを継続する。
	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	夏祭りの開催、餅つき大会の実施、ふれあいのつどいといった地域の方々との交流をしている。	記載なし	まだまだ地域交流には程遠くと考えている。色々なことができるようこれからも積極的に交流する機会を増やしていく
保護者への説明責・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約時に各保護者様に伝えている。負担額などは1度では難しいこともありその都度保護者様に手紙を作成の上、電話や送迎時に説明を行っている。	記載なし	改めての説明を行うと共に、いつでも相談して頂けるように日頃から保護者との関係を構築する。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	送迎や面談時に必ず児童発達管理責任者が同席し直接説明するように徹底している。	記載なし	直接説明をすることは変わらず、計画内容は保護者にも分かりやすい表現を使用する。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	保護者様からの要請があれば実施を行っている。	記載なし	こちらから無理に進めていくのではなく保護者様からの要請があれば実施を行う。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	定期的に保護者との面談や送迎時に自宅や学校での様子を聞いている。	記載なし	保護者様だけではなく学校等と協力を行い本人にあった支援を展開する。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	定期的に保護者との面談や送迎時に自宅や学校での様子を聞いている。	記載なし	個別に面談を設ける等、保護者様の相談、対応を実施していく。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	保護者会の開催は行っていない。	共働きの世帯が多く参加できないことの方が多いため特に開催されなくても問題がないように思う。	定期的に土曜日イベント等を通じて保護者との関係を今以上に深めていきたい。

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

別添様式2

公表日：31年 2月 16日

事業所名：フューチャー芦屋

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
1次	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	契約書に苦情対応に関する項目を記載の上、実際にあった場合は緊急会議を行い迅速に解決に向けて動けるようにしている。苦情内容は職員全員が知ることができるようにしている	記載なし	小さなことでも支援員全員で確認を行い、苦情があった場合は迅速に動けるように普段から意識をもつ。
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	絵カードや手紙の内容を漢字で表現するのではなくひらがな等を使って本人にも分かりやすく説明できるようにしている。	記載なし	その都度、対応を考え、本人や保護者様が分かりやすい方法を探す。
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	毎月保護者に配布の上、参加の有無を聞いている。またイベント時の写真はLINEを通じて各保護者に提供している。	記載なし	イベント等の写真はこれからも定期的に渡していけるようにしていきたい。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	同意書を作成の上、得た情報は鍵付き書庫に保管をする等気をつけている。また第三者に提供する場合は必ず保護者に伝えることを徹底している。	記載なし	個人情報の取り扱いは引き続き注意を行い、流出しないようにする。
非常時等	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	マニュアルを作成の上、保護者に配布を行っている。職員間での話をする機会を設け早めの対策をとるようにしている。	記載なし	保護者はもちろんのこと保健センターや学校、市役所といった関係機関との関係をもう少し深めていきたい。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	定期的な避難訓練の実施や防災センターへの来所。または決められている年1回の大規模な避難訓練を行っている。	記載なし	訓練ではできるが実際に起こってしまうと職員や子ども達の行動が予測できないことが多い。とっさの行動がきちんとできるように練習を重ねる。
	3	虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	虐待防止の研修に赴くことや、職員間での話し合いを行い常に確認をしながら業務に当たっている。疑わしい場合はその都度指導を行い保護者に謝罪の上、適切な処置をとるようにしている。		研修や職員での話し合いの場を設けどういった行動が虐待に当たるのか何が子ども達にとって過ごしやすい環境となるのかをつねに模索する。

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

別添様式2

公表日： 31年 2月 16日

事業所名: フューチャー芦屋

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
守 の 対 応	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	身体拘束は基本的に行わない。どうしても考えない場合は保護者と相談の上、同意書を作成しサインをもらうようにする。ただし最終的手段であることを職員に周知徹底し軽率に行わないように指導している。		引き続き身体拘束は行わない
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	事前に保護者に向けてアンケートを配布し何がアレルギーなのか確認をしている。記載がなくても簡単に考えるのではなく必ず保護者に確認の上、食べて頂くようにしている。		今後も事前に確認することを徹底し、大丈夫だと簡単に決めてしまわないように注意を行う。常に注意を行い、防止に努めていく。
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	忘れ物や怪我等は必ず作成し他の職員にもわかるようにしている。またあまりにもヒヤリハット回数が多い場合は指導の上、業務から外す等をしている。		小さなこともでも常に職員で情報を共有し同じ過ちを繰り返さないように施設全体の能力向上に努めたい。